

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2024年	4月	24日	(記入者) 神野一美	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	鈴木
	仲	灰藤	東辻	本井	
取材対象先	大淀町：大岩神社の木造男神・女神坐像 附 木札				

所在地	吉野郡大淀町大岩				
所有者(取材 対応者)名	大岩自治会(大岩自治会長、大淀町学芸員 松田 度氏)(個人情報守秘)			連絡先：0747-54-2110	
	PCアドレス				
取材申込	申込先・行政名など：大淀町教育委員会 松田学芸員				
市町村 指定文化財	彫刻	6 軀	木造男神・女神坐像 附 木札(天文十八年)1点 2019(平成31)年3月27日指定		
	建造物	棟			
文化財指定理由	男神像3軀、女神像3軀の神像が合祀され、いずれも小像ながら本格的な作風で、均整ののとれた姿から、鎌倉時代後期の作と見られる。また、天文十八年七月十日の墨書がある旧社殿の建築部材も、神像の由来を示す関連資料として貴重である。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	文化財指定された神像は、本殿から公民館に移され、公民館に据え付けられた金庫の中で厳重に保管されている。	問題はないと思われる。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	これまで神像が保管されていた本殿では、60年の間に木箱の隙間から土バチが入り込み、卵を植え付けられて神像に穴が開きボロボロになっていた。現在は、その穴は必要最小限の虫害対応処理(クリーニングと燻蒸処理等)済み。	どの神像も背側が特に痛々しく見えるが、当面は問題ない。
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	大岩神社にあるご神像の傷みが激しく、早急に保存処置が必要になった。大淀町内で最も古い大岩神社のご神像を信仰の対象と守ってきた先人たちの思いと、貴重な姿を文化財として後世に伝えたいという意見を、自治会として何度も話し合いを重ねた結果、令和の年号を迎える節目に、新たなご神像(男女一対)を製作することが決まった。現在は新しいご神像(男女一対)が本殿に奉納されており傷みの激しかった6軀のご神像と役割を交代して地域を守っていただいている。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

文化財指定された神像は、現在は大岩区の公民館で厳重に保管されている。要請があれば新たに作られた神像のレプリカと併せ、学芸員立会いの下で拝見が可能。6軀の神像は修復を施されているが、今後は恒久的な処置(エポキシ樹脂を埋めるなど)の必要がある。しかし、そのためには多額の費用がかかることであり、その費用の捻出をどのようにするかが当面の問題であるという。今回は、附の木札(天文十八年)は拝見できず、本殿に新しい神像と一緒に納められているため。

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2024年	4月	24日	(記入者) 神野一美	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	鈴木
	仲	灰藤	東辻	本井	
取材対象先	大淀町：大岩神社の木造男神・女神坐像 附 木札				

<写真撮影許可済み>

文化財指定名 木造男神・女神坐像 附 木札 (天文十八年) 1点

文化財 (男神、女神像計6軀)



新たに制作された神像のレプリカ (男神、女神1対)
→

← 神像が納められていた箱

神像の背側にあいた穴(土バチによる被害)

大岩神社本殿



文化財の由緒などを記入

所有社寺や地域 (廃寺等) の歴史や特徴を記入

神像は6軀あり、像高は、約16~19cm、木造で素地。束帯の男神坐像と唐服の女神坐像で、その特徴から男女三対にグループ分けできる。小像ながら本格的な作風で、概ね鎌倉時代の作とみられる。(大岩自治会発行のご神像2軀の模刻新調記念誌「大岩神社」より抜粋) 江戸時代は八大竜王社と呼ばれていたことから、本来は8軀あり2軀が行方不明になったか、3回のご造替を繰り返して、その都度神像を奉納したか、いずれかだろうと推測される。

明治初年まで「八大竜王」と称し、神仏混交不可になり「水分神社」と変わり、その後、村内の八幡神社を合祀して大岩神社となる。ご祭神は「天水分神」と「誉田別命」。境内に入ると拝殿があり、その奥に本殿がある。1987(昭和62)年に地域にゴルフ場が開場するにあたり、ゴルフ場の開発会社より拝殿・本殿とも新築奉納された。